

重症虚血肢患者のフットケアに関する勉強会の実施と看護師の意識変化

Study on the relationship between the “change in recognition of nurse”
and “enforcement workshop on foot care for CLI”

西 8 階病棟

小松歩美 守屋秋津 矢嶋美雪 内田緑

〈要旨〉 2年前より病棟の小グループ活動としてフットケアグループを組織し、活動している。病棟看護師のフットケアへの意識、取り組みの現状を明らかにするためにアンケートを実施したところ、約8割の看護師がフットケアに対し「困っていることがある」と回答した。フットケアグループでは、アンケート結果から看護師を対象にフットケアで困っている内容に焦点を当てた勉強会を実施した。その結果、勉強会が患者のフットケアに役立ち、フットケアに関心が持てるようになったスタッフが増え、病棟看護師のフットケアに対する意識を変化させることができた。

キーワード：フットケア，重症虚血肢，看護師の意識変化

はじめに

A病棟は心臓、血管の再建治療を行っており、重症虚血肢（以下CLI：Critical Limb Ischemia）患者のフットケアを病棟看護師が日常的に行っている。しかし、これまで学習する機会がなく、医師に指示された方法で処置を行うのみで治療に活かせるような看護上のアセスメントができていなかった。昨年部署内にフットケアグループを組織し、病棟看護師のフットケアへの意識、取り組みの現状を明らかにするためにアンケートを実施した。その結果、約8割の看護師がフットケアに対し「困っていることがある」と回答した。片岡1)らは、『積極的なフットケアへの介入が出来ていなかったスタッフが、勉強会の参加や知識・技術のあるスタッフと共にケアすることにより、知識・技術の習得に役立ち、意識向上が図れた』と報告している。グループの活動として、現状の把握とケアの向上に向けての課題を明らかにし、看護師対象に勉強会を実施した。取り組みにより看護師に意識変化がみられたため報告する。

研究目的

- ・看護師の意識調査から重症虚血肢患者のフットケアの現状を探る
- ・看護への勉強会の実施によりフットケアへの意識を高める

研究方法

- 1) 対象：勉強会前アンケート 西8階病棟看護師全員（33名）
勉強会実施後アンケート 勉強会参加者（15名）
- 2) 研究期間：2011年6月～2013年2月
- 3) 方法
 - (1) 勉強会実施前に病棟看護師（33名）へアンケートを実施
アンケート内容は、フットケアについて困っていること、知りたいことについて自由記載にて実施。①疾患・病態，②治療・処置，③退院指導，④疼痛コントロールについての全4項目で実施した。
 - (2) アンケート結果をもとに勉強会を実施
勉強会の内容は、『退院指導に活かせるミニ知識』と題し，①疾患・病態，②運動療法，③温熱療法，④下肢の保護（くつ・靴下の選択），⑤保湿について，の全5項目について実施した。
 - (3) 勉強会実施後に参加者（15名）へアンケートを実施
アンケートはオリジナルの物を使用し，無記名，自記式にて実施。アンケート内容は，勉強会の内容について①患者のフットケアに関わる上で役立つか，②フットケアに関心が持てるようになったか，③今後のフットケアグループに期待することについての全3項目

で実施した。

4) 用語の定義

フットケア：CLI患者の潰瘍に対する足処置，創部の観察，創状態のアセスメント，退院指導等の患者指導を含む。

フットケアグループ：病棟内で行っている小グループ活動の一環。看護師の勉強会グループ。

5) 倫理的配慮：病棟看護師に対し，調査主旨，調査協力は自由意志であること，調査結果は研究以外用いないことを口頭と文書にて説明し，アンケートの回答をもって同意を得るものとした。また，個人が特定されないようアンケートは無記名で行い，プライバシーの保護に配慮した。アンケートは研究目的のみに使用し，研究終了後に全て破棄するものとした。なお，本研究は，信州大学医学部医倫理委員会の承認を得ている。

結果

1. 勉強会実施前アンケート結果

12名より回答が得られた(回収率36.4%)。フットケアについて困っていること，知りたいことは以下の通りである。

①病態・疾患について

- ・PAD（末梢動脈閉塞症），ASO（閉塞性動脈硬化症），CLI（重症虚血肢）の違い
- ・糖尿病，腎臓病との関連
- ・悪化予防
- ・狭窄部位と疼痛部位
- ・血管の略語・解剖
- ・ドップラーの音の違い

②治療・処置について

- ・狭窄部位と治療
- ・治療・処置時の薬剤
- ・VAC療法（陰圧閉鎖療法）のトラブル症例，合併症
- ・PTA（経皮的血管形成術）とEVT（血管内治療）の違い

③退院指導について

- ・退院指導の基本
- ・一般的なフットケア方法（お湯の温度，クリーム必要性，靴下，靴の選択）
- ・運動，マッサージ
- ・リハビリ

- ・足処置継続している場合，退院後温泉に入ると良いか

④疼痛コントロールについて

- ・鎮痛剤の種類と効用
- ・疼痛の種類と鎮痛剤の関係
- ・疼痛アセスメント，評価の応用
- ・痛みの波があるのはなぜか
- ・痛みが出る前に内服した方が良いのか

2. アンケート結果をフットケアグループ内で検討し，勉強会を実施

勉強会の参加者は15名であった。勉強会の内容は以下の通りである。

①疾患・病態

②運動療法：運動療法の適応，効果について説明

③温熱療法《炭酸温浴について》：実際患者の実施している方法や，発泡剤の実物などを用いて効用を説明

④下肢の保護《靴・靴下の選択》：保護の重要性や，実際の靴や装具を作るための方法，手段の説明

⑤保湿について：保湿の重要性や病棟内でよく使用される保湿材の効果や適応について説明

3. 勉強会実施後アンケート

13名より回答が得られた（回収率86.7%）。

①勉強会の内容は患者のフットケアに関わる上で役に立つか

- ・大いに役に立つ 9名（69.2%）
- ・役に立つ 4名（30.8%）

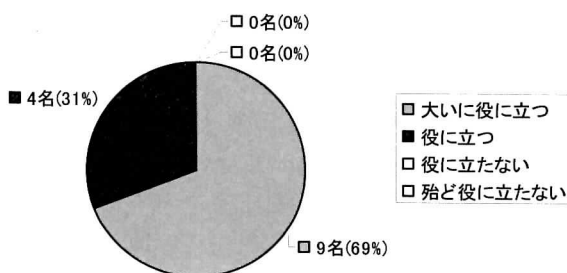


図1 勉強会の内容は患者のフットケアに関わる上で役に立つか

【理由】

- ・退院支援が今まで曖昧であった
- ・運動療法など知らないことが多かった
- ・患者への指導に活かそう

②勉強会の実施によりフットケアに関心が持てるようになったか

- ・はい 10名 (76.9%)
- ・いいえ 3名 (23.1%)

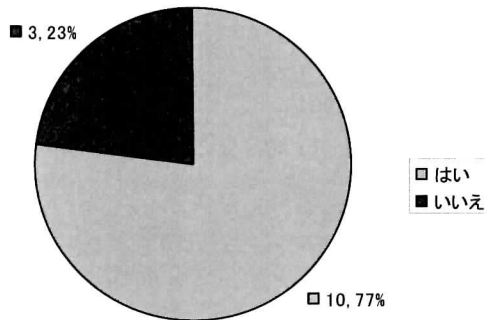


図2 勉強会の実施によりフットケアに関心が持てるようになったか

【理由】

- ・自分の知りたい内容だったので関心が持てた
 - ・ケアの方法の仕方が分かった
 - ・知識は得ても直接患者のケアに活かすことが出来ていない
 - ・日々の業務の中では心疾患の患者が多く知識や技術を活かしきれない
- ③今後のフットケアグループへ期待すること
- ・患者指導用のパンフレット作成
 - ・運動療法介入についての勉強会を実施してほしい

考察

病棟看護師の約8割がフットケアについて困っていると感じていたことから、フットケアに関心が持てない看護師が多いのではないかと考えられる現状があった。日々の業務の中で、看護師からは「足処置は時間がかかり業務に余裕がなくなる」「軟膏の種類や保護材などについての知識がなく治療の過程が分からない」「頑張っても足処置をしても、経過が長く、結局切断に至るケースも多く回復への実感がわからない」などの意見が聞かれていた。また、A病棟では足処置方法や、観察方法、退院指導などケアの統一がされていないこと、CLI患者の看護を展開するうえで十分な知識がない、学習する場がないといった現状もあった。フットケアに関心が持てない背景にはこのような知識不足や負担

感、無力感があるのではないかと考えられた。そこで、フットケアグループの活動として、まず知識不足に対する介入ができると考え、スタッフの興味や関心、知りたいことを把握し、それらに沿った勉強会を実施した。勉強会の実施後は全てのスタッフが、勉強会の内容は患者のケアに「大いに役に立つ」「役に立つ」と感じ、76.9%のスタッフがフットケアに「関心を持つ」という意識変化がみられた。勉強会を実施することで、看護師にフットケアへの興味を持たせることができたと考えられる。一方で、「知識があっても患者へのケアに直接活かしていない」、「退院支援が曖昧だ」という現状も明らかになった。患者の創部の状態や経過は様々であり、患者背景なども異なる中で一般的な知識を応用させることは難しく、知識を得ても、時間のかかる観察・処置は日々の業務の中ではスタッフの負担になる可能性も考えられた。今後は、勉強会から得た知識を、患者へのケアに実際に活かせることが課題であり、そのためにはケアの実践や、事例検討など、よりイメージしやすい形で知識や技術を提供していく必要がある。また、業務の負担感軽減のために、処置方法、観察方法の統一、CLI患者の退院時に用いることのできる患者パンフレットなど、業務の改善にも取り組む必要性が考えられた。

勉強会前のアンケート結果より、疼痛コントロールについても疑問や興味を持っている看護師が多いことが分かった。CLI患者は安静時にも疼痛を伴うことが多く、痛みが一番の苦痛になると考える。処置の際には更に疼痛が増す場合が多く、洗浄や軟膏塗布などの処置を拒否する人もいる。その場合、例えば薬剤を用いた疼痛コントロール、痛くない包帯の巻き方や洗い方などについて看護師が知識を習得し、行うことができれば患者の処置時の苦痛を最小限にすることができると考えられる。また、看護師が日々の看護の中で患者の痛みや思いにも目を向けられ、疼痛に対する対応、切断に至った場合のボディイメージの変化に伴う精神的側面へのフォローなど、積極的に介入できることが必要と思われる。この研究を通してCLI患者の看護として、様々な面で看護師の関わりが求められており、看護師一人ひとりがフットケアに関心を持ち、患者の苦痛を最小限にするためのケアがで

きることが、CLI患者への看護として重要であると再認識できた。

フットケアグループの今後の課題としては、スタッフが困っていることや知りたいことは何か、定期的に情報収集し、フットケアに関心を持てるような勉強会や事例検討を実施していく。また、患者自身が退院後の自己管理に活用でき、スタッフの患者指導に役立つようなパンフレット作成などの取り組みを行っていく。

今回、勉強会の実施は病棟看護師のフットケアに対する意識を変化させることができたと考えられるが、勉強会への参加人数が少なく、病棟看護師全員の意見を反映できたとはいえない

い。今後も継続的にアンケート等実施し、より多くのスタッフの意見を取り入れフットケア向上に努めていきたい。

結語

勉強会の実施は病棟看護師のフットケアに対する意識を変化させることができた。

参考・引用文献

片岡育世, 中村栄子, 落合志保, 三阪福美, 白井美由紀:「フットケアに対するスタッフの意識向上への取り組み」, 日本看護学会論文集 看護総合40号, P30-32, 2010